

## 学校法人 福岡学園 平成 29 年度事業計画

急速な少子高齢化やグローバル化の進展、政治・経済の混迷など先行き不透明な時代の中、本学園は自らの特色や役割の明確化を図るとともに、教員、職員一人ひとりの個性・能力・経験を結集して、医療、保健、福祉分野の総合学園として着実にその歩を進めてきた。

これまでの歴史と伝統を踏まえ、将来にわたる持続的な発展を図るため、本年度「福岡看護大学」を開学し三大学体制を始動させるとともに、新たに策定した今後 6 年間の中長期的目標である「第三次中期構想（2017～2022 年度）」に基づく事業活動を積極的に展開する。

引き続き、「学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校」、「地域の歯科医療・保健・福祉への貢献」、「口腔医学の確立による医歯学の進展への寄与」をモットーに、社会の変革に迅速・的確に応えることのできる活気ある学園づくりに向け、平成 29 年度の事業計画を次のとおり定める。

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<p><b>1 教育に関する目標</b></p> <p><b>(1) 社会のニーズに応える医療人の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高い倫理観と使命感を持ち、豊かな人間性を備えた、教養と良識のある医療人の育成を目指す。</li> <li>超高齢社会の中で、口腔の健康から全身の健康を守る医療・介護を実践し、多職種連携のもとに地域の医療・保健・福祉に貢献する能力を備え、高い生涯学習の意欲をもつ医療人の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学と短大は改訂した三つのポリシーに基づき、看護大学は新設した三つのポリシーに基づき、教育活動を展開する。</li> <li>歯科大学は、改訂したディプロマ・ポリシーを満たす人材を育成するため、改訂したカリキュラム・ポリシーに基づいた教育活動を展開する。</li> <li>看護大学では、社会人として必要な規範や職業倫理について学び、看護専門職が保健・医療・福祉などの他職種と協調・協働する際の基礎となる態度を育成する。</li> <li>短期大学では、多職種との協働・連携に必要な専門的・汎用的能力の伸長のため、アクティブ・ラーニングの充実を図り、教育改善につなげる。</li> <li>将来的に地域包括ケアシステムの中で活躍できる歯科医師を育成するカリキュラムを、福岡歯科大学学務委員会とともに立案する。</li> </ul>
<p><b>(2) 口腔医学の確立・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的大学連携支援事業の過去 10 年間の総括を行うとともに、今後の大学間連携の方針を策定する。</li> <li>現在および将来の社会情勢、教育制度や医療ニーズに対応した口腔医学の学問体系の確立・育成に取り組むとともに、社会への情報発信の推進、口腔医学教育の充実、多職種連携医療における口腔医学の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 大学連携事業の総括として口腔医学シンポジウムや F D 研修等を継続して開催するほか、実施担当者会議等の協議に基づいた内容で自己点検・評価報告書を作成する。</li> <li>歯科大学では、連携大学と引き続き行う医歯学連携演習 T V 授業を通じ、口腔医学教育の充実を図る。</li> <li>看護大学では、学士課程における口腔ケアの看護実践能力育成を目指して、歯科大学、短期大学及び周辺看護系大学との連携を推進し、口腔ケア看護教育モデルプログラムを検討する。</li> <li>短期大学では、三大学の学生を対象に口腔ケア教育が医療系学生の口腔ケア意識、知識および態度に及ぼす効果について調査し、口腔ケア教育の問題点などを抽出し、改善を図る。また、福岡県歯科衛生士会、福岡県・市歯科医師会の後援のもと「口腔介護スキルアップ講座」を継続し、医療ニーズに対応した歯科医療従事者</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
	<p>のスキルアップに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院では、口腔医学を地域や院内に浸透させるために訪問診療と入院患者への口腔ケア件数を増加させる。</li> <li>・連携病院におけるがん患者の周術期口腔機能管理を多職種連携チーム医療のモデルとして学生の臨床実習に供する。(訪問歯科の取り組みの支援)</li> </ul>
<p><b>(3) 福岡歯科大学口腔歯学部</b>の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔医学の知識や技術を身に付けた歯科医師を育成するため、改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づきカリキュラムを構築し、教育内容の改善・充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラム構築の検討を開始する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学間連携による口腔医学モデルシラバスを導入し、医歯学連携教育の充実を図るとともに、診療参加型実習の内容や評価法の更なる向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新モデル・コア・カリキュラムに対応した、医歯学連携教育と診療参加型実習のカリキュラム整備に取り組む。</li> <li>・臨床実習後の臨床能力試験の導入に向けて、診療参加型実習の総括的評価項目の充実を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果の可視化を通じてアウトカム基盤型教育を推進し、学習意欲の高揚と教育効果の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシー（コンピテンス・コンピテンシー）と授業の行動目標との関連を新シラバスで明示し、授業での達成目標をより明確にすることによって、学生の学習意欲の向上に取り組む。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習や新しい学習到達度評価の充実に取り組み、初年次からの自己問題提起・解決型能力と総合的な学習能力の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必須学力統合試験（第1～3学年）を本格実施することにより、低学年からの総合的な学習能力の向上に取り組む。</li> <li>・AO入試I期及び推薦入試の入学予定者に対する入学前教育を充実させ、初年次から問題解決能力の向上に取り組む。</li> </ul>
<p><b>(4) 福岡歯科大学大学院</b>の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究基盤能力向上のための教育体制の確立とともに、修学支援体制を充実させながら、多面的な研究指導体制による高度な研究能力の涵養を図ることによって、先進的な研究成果の創出につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂したアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーのもと、高度な口腔医学研究の場としての大学院を拡充させるため、各研究センターとの連携を深めて大学院の活性化を図る。</li> <li>・中間発表会ならびに公開発表会などを通じて多数の研究科教員による充実した指導を受ける機会を増やす。</li> <li>・修学支援体制の充実の一環として、学業・キャリア・生活・対人関係などの問題の解決を図るための相談窓口を設ける。</li> <li>・学業に専念できる環境支援及び修学支援体制の充実化に向けて、新設された特待生制度と拡充された奨学制度のもと、運用を開始する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携、産学官連携、国内外研究機関との研究交流を通じて、組織的研究拠点として研究センターの活用を図りながら、口腔医学を基盤とした新領域や融合研究領域で活躍できる社会性・国際性豊かな人材育成を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別研究学生の派遣及び受入れのために整備した規則を基に、他大学・研究機関との間の大学院生の派遣や受入れを行い、積極的な交流を推進する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医科歯科総合病院と口腔医療センターを活用した臨床研究を中心としたカリキュラムの創成を通じて、高度専門職医療人の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観を踏まえた柔軟性に富む大学院カリキュラムの設計に関する議論を開始する。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<p>(5) 福岡看護大学の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療・看護ニーズに対応できる高度な専門的知識と技術を修得し、看護学の発展および人々の健康と福祉に貢献できる看護専門職の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野間で教育内容、シラバス、評価基準について協議し、教育の質の担保を目指す。</li> <li>初年次に求められる看護実践能力についてルーブリック評価で可視化し、ポートフォリオや模擬患者演習等により、講義・演習・実習を関連付けて発展的に学習できる能力の育成を支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設との連携強化と実習指導体制およびリスク管理体制を整備し、実習の質向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設との協議の上で、臨地実習指導者の育成のために、大学教員による研修会を開催するとともに「実習小委員会」、「実習協議会」、「実習指導者会議」を定期的に開催し、大学と実習施設との連携及び実習指導体制を整備する。</li> <li>助手と連携を図り、教育の一貫性と質を担保した実習指導の体制を整える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育研究基盤を充実させるため、2021年度（平成33年度）設置に向け、看護系大学院開設の準備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院設置構想を策定する委員会を組織し、社会のニーズを踏まえて骨子をまとめる。</li> </ul>
<p>(6) 福岡医療短期大学の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔保健・口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育を充実し、歯科衛生士・介護福祉士への志向を高めるとともに、専門的口腔ケア技術の教育内容・指導方法について継続的に検証・改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科衛生学科では、個々の対象者に対応した「口腔保健管理」の提供ができるよう教育プログラムの検討を行う。また、「口腔介護推進歯科衛生士」の資格要件である高齢者施設でのボランティア活動等の拡大を図り、専攻科生の「口腔機能向上推進歯科衛生士」の資格取得への教育指導として口腔介護スキルアップ講座、公開講座等への参加を充実させる。</li> <li>保健福祉学科では、学科の特長である「医療的ケア教育」等の専門教育の充実を図る。</li> <li>平成26年度から継続している文部科学省選定事業「大学教育再生加速プログラム（タイプⅠ・Ⅱ複合型）」のこれまでの教育実績と成果の取り纏めを行い、今年度中間審査を受審する。</li> <li>昨年度実施したアクティブ・ラーニングやルーブリック評価に基づく学修成果の解析結果を踏まえ、取組の改善と活用の促進を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医科歯科総合病院・介護保険施設等との連携により、高度かつ実践的な教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次学生、専攻科生に対して臨床・臨地実習、口腔医療センターでの実習についてアンケート調査等を実施し、臨床・臨地実習の充実を図る。</li> <li>介護保険施設との施設間会議で協議し、実習の充実を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズ等を踏まえて、歯科衛生学科の学士課程への転換に向けた検討を継続し、保健福祉学科の改組（専門職業短期大学）を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学士課程に対応できる教員を育成するため、助教、講師の研究を支援し、その研究成果を発表するとともに民間の研究助成金の申請に全学的に取り組む。</li> <li>保健福祉学科では、短大活性化会議を中心に、他の養成校との専門教育の差別化を図る方策の検討を継続するとともに、志望学生増につながる多種多様な取組について検討する。</li> </ul>
<p>(7) 教育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なFD・SD活動を通じて、教育の変化に対応し改善できる教育能力を持つ教職員の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、FD委員会のもとに設置の各WGを中心に、FD・SD活動（①学生支援の充実に関するもの、②教員の資質向上に関するもの、③大学院及び研究の活性化に関するもの）を引き続き推進する。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
	<p>また、大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）の取組により、収集した教学データに基づいた教育方法・内容の改善に関するFD、ワークショップを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護大学では、教員の資質向上、教育者としての自覚や意識の涵養及び授業技術や教材開発等の教育方法に関するFD研修会を年3回、計画的に実施する。</li> <li>・短期大学では、学園全体のFD・SDに積極的に参加するとともに、大学再生加速プログラムにおいて毎年度開催しているFD・SD講演会でその時期に最も有意義なテーマについて適切な講師を招聘し教職員の能力向上に努める。</li> <li>・教職員の意識改革と能力向上に向けたFD・SDを実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業評価や各種教学調査を実施するとともに、それらの検証方法を整備し、結果をフィードバックすることにより継続的な教育改善と質の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科大学では、教育方法の改善につながる授業評価アンケートの内容・集計方法・フィードバック方法を考案するとともに、学部学生や卒業生に対する修学環境満足度調査を実施することにより、継続的な教育改善に取り組む。</li> <li>・ 看護大学では、授業評価のあり方について組織的に協議し、教育改善に向けた具体的な実施方法をまとめる。</li> <li>・ 短期大学では、授業評価アンケートについて、検証とフィードバックを行い、PDCAサイクルを継続して行う。大学IR学生調査、時間外学習時間の調査、卒業生、就職先へのアンケート調査等を実施し、学務・FD委員会を中心に検証を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡看護大学および福岡医療短期大学においては、教員の資質向上のための学位取得支援体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護大学では、教育研究体制の基盤構築に向けて、博士の学位取得を奨励し取得支援体制を検討する。</li> <li>・ 短期大学では、助教、講師の学位取得のため、教授、准教授による研究指導體制を整えるとともに、歯科大学との共同研究体制も整える。</li> </ul>
<p><b>(8) 国家試験</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡歯科大学では歯科医師国家試験合格率の向上、臨床実習開始前の共用試験（CBT、OSCE）および臨床実習後の臨床能力試験の全員合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第111回歯科医師国家試験において新卒者の全員合格を目指す。また、共用試験の全員合格を目指す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡看護大学では看護師・保健師国家試験の全員合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年後の看護師国家試験全員合格を目指し、看護学の専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置き、保健師希望の学生については適切な履修指導を実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡医療短期大学では歯科衛生士・介護福祉士国家試験の全員合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科衛生学科では、昨年度の国試対策を総括し、成績不振者の教育方法について検証するとともに、今年度の対応策について立案し、国家試験の100%合格を目指す。</li> <li>・ 保健福祉学科では、将来の国家試験義務化にも対応できるよう、2年次を対象とした国家試験対策教育指導を継続・推進する。</li> </ul>
<p><b>2 研究に関する目標</b></p> <p><b>(1) 研究の質の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口腔医学を基盤とする基礎的・応用的研究を推進するとともに、関連大学・研究機関との連携による研究を漸進的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早良区での健康に関する住民調査を継続し、地域包括ケアシステム構築のための課題発見とその解決方策の提案を論文としてまとめる。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の適正化を図り、意欲的な研究活動を支援するための研究マネジメント体制を充実するとともに、研究センターによる先進的研究プロジェクトの展開と学園内共同利用研究拠点としての設備の活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究室及び研究センターごとに特色のある研究プロジェクトの活性化を図る。</li> <li>口腔医学の発展に寄与する研究の拠点化を図る取組みを開始する。</li> <li>研究活性化に資する外部資金導入を進めるために、申請書の効果的なブラッシュアップによって科研費などの新規採択率の更なる向上を図る。</li> <li>研究の適正化を図るために、学部学生、大学院生から教員までに対する研究倫理教育の拡充を進める。</li> <li>他の国内大学等との協定に基づく共同研究等を推進する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学部学生から医療従事者までに広がる研究マインドの幅広い定着に向けた取組みを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、学生研究支援プログラム制度や3年次の基礎研究演習を活用し、学部学生の研究マインドの涵養を図る。</li> <li>研修歯科医などの若手医療従事者に対して研究マインドの重要性を伝える取組みを進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔医学・口腔保健学・看護学・介護福祉学領域の共同研究を推進し、時代のニーズを先取りした医療・保健・福祉分野における新たな研究領域を創設する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三大学の共同研究の在り方について検討する。</li> </ul>
<p><b>(2) 研究ブランドの確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学的独自色（研究ブランド）を打ち出すために最優先研究課題を設定し、地域社会・国際社会のニーズに応える研究成果を生み出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、昨年度の私立大学研究ブランディング事業申請の結果を踏まえて、新たな着想で地域社会あるいは国際社会のニーズに応え得る研究ブランドの構築を行う。</li> <li>看護大学では、看護学・口腔医学連携研究委員会活動の充実を図り、地域社会のニーズに応える研究論文の投稿を推進する。</li> <li>短期大学では、昨年度申請した「地域包括ケア時代における高齢者の口腔機能・栄養・運動機能に基づくフレイル制御プログラムの開発」の内容について検証後、一部先行して研究を行い、今年度採択を目指す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学長のリーダーシップの下、研究センター機能の充実、関連研究機関との交流と若手研究者の育成を通じて、先進的学術研究拠点の創出を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院生や教員の研修派遣、受け入れ及び共同研究の実施を通じて、学外研究機関との交流を積極的に進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>全学的独自色に向けての取組みを加速させるために、全学的研究活動の管理・支援・評価体制の整備を進めるとともに、研究課題の事前調査と事後評価のための学園内外の連携体制の構築を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランディング事業実施委員会が中心になって、アンケートなどによる事前分析をもとに、全学的研究活動に対する管理・支援体制の整備を進め、学園内外の連携体制を強化する。</li> <li>私立大学研究ブランディング事業を申請し、採択につなげる。</li> </ul>
<p><b>3 学生の支援等に関する目標</b></p> <p><b>(1) 修学等の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の学生ニーズに応える修学支援システムや主体的学習支援体制の整備・充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）の取組により、作成したアセスメントポリシーに基づく評価を一部授業科目で実施し、改善事項をアセスメントポリシーにフィードバックする。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
	<p>また、本館1階学生ホールに導入した学習用のICT機器やe-learningシステムを活用させ、時間外学習時間の増加及び学習内容の充実に取り組むとともに、SA、TA制度を活用し、主体的学習支援体制の強化に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護大学では、学期毎に履修ガイダンスを実施し、個々の学生ニーズに応えるためにチューター制度及びオフィスアワーを活用しながら、主体的学習支援の充実を図る。</li> <li>短期大学では、昨年度全学生を対象に実施した大学IR学生調査の集計結果を検証し、時間外実習アクティビティなど主体的学習支援体制の整備・充実を図る。また、学修成果の可視化の観点から実施している大学IR学生調査を明倫短期大学（新潟）と久留米信愛女学院短期大学（福岡）の2大学との連携協定の取組として継続実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生への経済支援・課外活動支援を充実するとともに、口腔医療、口腔保健、看護、介護を志向する学生への就職活動支援の拡充に取り組み、保護者の会、学生共済会や同窓会との連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡歯科大学学生共済会等との連携を図り、学生への経済支援・課外活動支援の充実に取り組む。</li> <li>看護大学では、学生生活実態調査を実施し、必要な学習支援・経済支援・課外活動支援の在り方を検討するとともに、学生の保護者を会員とした後援会を立ち上げ、学生支援に向けた組織運営の基盤を整備する。</li> <li>短期大学では、就職支援室や後援会、同窓会との連携を強め、学生の就職活動を積極的に支援する。また、経済支援としての高齢者施設でのアルバイトが就職に繋がるよう支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の能動的な時間外学習を支援するため、学習環境の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、新たな人間関係と学び方を支援する空間創造を目的として整備した、本館1階の学生ホールを活用した学生主体の学びの取組を支援する。</li> <li>短期大学では、パソコン教室に新設備を導入し、学習環境の整備を行う。</li> </ul>
<p><b>(2) 学生の受け入れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アドミッション・ポリシーに基づき、厳格な入学者選抜を行うとともに、口腔医療、口腔保健、看護、介護を志向する意欲のある優秀な学生を確保するため、入学制度や試験制度のあり方について不問の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、改訂したアドミッション・ポリシーに基づき、厳格な入学者選抜を行い、平成30年度入学者を確保するとともに編入学制度の充実を図る。</li> <li>看護大学では、入学試験実施結果と入学生の実態（志望動機、併願状況など）を分析し、入学試験制度全般を検討する。</li> <li>短期大学では、改訂したアドミッション・ポリシーに基づき、厳格な入学者選抜を行うとともに、意欲のある優秀な学生を確保する方策を検討する。また、入学制度や試験制度のあり方について検討を行うため、入学後の成績について追跡調査を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや広報誌での入試情報の充実、オープンキャンパス、高校訪問、高大連携、同窓会との連携などを積極的に推進することで、口腔医学を身に付けた医療人の必要性をアピールするとともに、社会に貢献できる優秀な学生の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園全体のホームページを統一感のあるものにするためのリニューアルに向けて引き続き検討する。</li> <li>歯科大学・短期大学で改訂したアドミッション・ポリシーに適った学生を確保するため、新ポリシーをホームページや広報誌等で公表するとともに、オープンキャンパス、高校訪問、進学相談会などで積極的な周知活動を行う。</li> <li>看護大学のホームページ及び大学案内で教育施設・設備、教員・学生を紹介し、コンテンツを充実させる。</li> <li>広報誌 New Sophia の内容の拡充を図る。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<p><b>4 社会との連携・貢献に関する目標</b></p> <p>(1) 医科歯科総合病院</p> <p>①医科歯科総合病院における安全で良質な医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療ニーズに応え、医療の質を一層向上できるように、人材確保および人材養成のための方策を継続的に図る。</li> <li>地域包括ケアシステムに応じた診療体制の整備を行い、医科歯科連携および多職種連携を通して、地域医療連携に貢献する。</li> <li>三大学の卒前・卒後教育と医療・保健・福祉職の生涯研修に貢献する。</li> </ul> <p>②医科歯科総合病院の管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学園および地域に立脚した機動的な病院戦略を確立する。</li> <li>病病連携および病診連携に対する方策を継続的に立てて実行する。</li> <li>効率的で無駄のない病院経営を行うために、運用システムの中央化を図る。</li> <li>災害時危機管理、患者情報保護および医療安全管理についての計画的整備を図る。</li> </ul> <p>(2) 口腔医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者中心の安全で良質な医療と最新医療を提供し、病診連携の拠点として地域医療に貢献する。</li> <li>福岡歯科大学および福岡医療短期大学の卒前・卒後教育に貢献し、各種講習の開催を通して生涯研修の充実を図る。</li> </ul> <p>(3) 介護老人保健施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステムを支える老健施設として、地域のニーズを踏まえた保健・福祉の発展に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療スタッフの外部研修について、より効果的な研修にスタッフを派遣する。</li> <li>摂食嚥下カンファレンスを継続し、口腔リハビリを充実させる。</li> <li>歯科大学の卒後教育の一環として実施するプログラムを「日歯生涯研修事業」に登録する。</li> <li>昨年度に引き続き指導歯科医講習会を7月に開催し、協力型臨床研修施設の指導体制の強化及び本院教員の指導歯科医資格取得率を上げ、歯科医師臨床研修体制を充実させる。</li> <li>老人保健施設サンシャインシティ及びグループ法人である特別養護老人ホームサンシャインプラザ、サンシャインセンターと定期的なミーティングを実現し、同施設からの受入れ患者の増加に努める。</li> <li>病病連携および病診連携を推進し、連携による入院患者の増加に努める。また、地域医療連携推進法人制度を活用し、地域の医療法人（例：広橋病院、福西会南病院）と連携し、嚥下リハ・回復期リハを推進する道筋をつける。</li> <li>新病院でのSPDシステム導入・洗浄滅菌業務の中央化を検討する。</li> <li>院外処方推進し、処方待ち時間の短縮を図るとともに、病棟薬剤業務を充実させ、患者サービスを推進する。</li> <li>アクションカードを完成させて災害対策（危機管理）マニュアルの見直しを行う。</li> <li>病院危機管理訓練を実施する。</li> <li>患者個人情報の漏洩件数ゼロを継続する。</li> <li>安心・安全な医療を提供するために診療スタッフのスキルアップを図るとともに、医科歯科総合病院との連携体制を強化する。</li> <li>学生及び研修医に対して実践的・効率的な教育を実施するとともに、センター主催の生涯研修を充実させる。</li> <li>地域のニーズを踏まえた保健・福祉の発展に貢献するため、地域包括ケアシステムの柱である入所者の在宅復帰を進め、入所・通所・短期入所を連携させた受入れ体制を整える。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>サンシャインシティ活性化委員会の提言に基づき、施設業務の見直し、改善および新たな取り組みを行い、施設の持続的発展を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッド稼働率をアップするための特性要因図を完成させ、施設の直面する課題の解決に向けて、職員のグループを作り、業務を見直し、課題への対応策を策定、実践し、施設の持続的発展を目指す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>三大学や他の教育機関の教育・研究および地域のボランティア活動の場を提供し、医療・保健・福祉を担う人材の育成および地域社会の保健・福祉活動と活性化に貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三大学や他の教育機関の実習に関する教育や施設実習を積極的に受入れ、医療・保健・福祉を担う人材の育成に貢献する。また、地域のボランティアを育成するとともに、活動の場を提供し、地域社会の保健・福祉活動に貢献する。</li> </ul>
<p><b>(4) 新病院の開設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新病院の理念と基本方針を明確にして、地域医療および卒前・卒後教育に対応した新病院を設計する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育病院としての充実性、病院経営の効率性、地域医療への貢献性を備えた新病院の理念と基本方針を立てる。</li> <li>教職員の働き甲斐がある新病院を設計する。</li> <li>地域住民が安心できる病院を設計する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安全な医療の場を地域住民に提供するために、2020年度（平成32年度）までの開設を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療への貢献性を備えた新病院の理念と基本方針を立てる。</li> </ul>
<p><b>(5) 社会連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学ネットワークふくおか、西部地区五大学、七隈線沿線三大学の連携を推進し、地域貢献活動を拡充する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下鉄七隈沿線三大学連携事業として、歯科大学ボランティア学生が口腔機能向上や子育て支援などで地域貢献に参加する活動を提案する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献活動を基盤にした地域志向教育・研究を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学選択科目「福博の歴史と文化探訪」の学修目標に「地域の課題の発見と解決」を加え、地域志向科目として位置づける。</li> <li>コミュニティーカフェ「かふえもりのいえ」をグループ法人である社会福祉法人学術会等と共催し、要望調査などを通じて地域の課題の発見と解決に努める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>県・市・自治組織、医療・保健・介護・福祉等の職能団体との連携を拡充して地域連携プラットフォームを形成し、生涯研修プログラムの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民向けの健康増進イベントを各種団体と共催する。</li> <li>他職種（看護師、薬剤師等）の生涯研修に向けて口腔医学に関する研修プログラムの開発に着手する。</li> <li>福岡歯科大学卒業後生涯研修プログラムの充実に向け、プログラム内容等について、歯科医師卒業後研修委員会において協議する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治体、医療・介護・福祉団体および地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「口腔と全身の健康増進」、「介護予防」、「子育て支援」などに関連する情報を、地域の特性に適合させた形式（公開講座、出前講座、健康体操教室、無料健康相談等）及び連携体制（各種団体・職種との協力）で提供する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会との連携を拡充する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学及び短期大学同窓会との定期会合を実施する。</li> <li>歯科大学同窓会員を対象とした、生涯研修プログラムの優待制度を導入する。</li> </ul>
<p><b>(6) 国際連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ、北米およびアジアの姉妹校や他の海外の大学・研究機関との教育・研究連携を積極的に展開し、国際的視野をもつ医療人や教育・研究スタッフの育成を図るとともに、研究活動の国際的展開のための基盤形成を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科大学では、ヨーロッパ、北米及びアジア各国における姉妹校との交流環境の変化に対応した交流内容の見直し及び新規姉妹校協定締結のため、情報収集を行う。</li> <li>看護大学では、海外の看護系大学との教育・研究の連携を目指し、学生及び教員の海外研修について検討する。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<p><b>5 組織運営に関する目標</b></p> <p><b>(1) 教育・研究組織等の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学長のリーダーシップの下、教育研究活動の不断の見直しを行い、社会の変化に柔軟に対応できる教育研究組織を構築する。</li> <li>・ 三大学体制下における事務組織のあり方を検討し、課の統合やアウトソーシング等の効率的な事務組織を構築する。</li> <li>・ 2022年（平成34年）の福岡学園・福岡歯科大学創立50周年に向けて記念事業、寄附事業等の準備を開始する。</li> <li>・ 福岡看護大学の教育研究基盤を充実させるため、2021年度（平成33年度）設置に向け、看護系大学院開設の準備を進める。（再掲）</li> <li>・ 社会のニーズ等を踏まえて、歯科衛生学科の学士課程への転換に向けた検討を継続し、保健福祉学科の改組（専門職業短期大学）を検討する。（再掲）</li> </ul> <p><b>(2) 人事制度の充実と人材確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園および各大学等の円滑な運営を推進するため、人材育成計画を検証し、有能な人材を確保する。</li> <li>・ 学園および各大学等の円滑な運営を推進するため、人材育成計画を検証し、有能な人材を確保する。</li> <li>・ 人材育成の観点から人事考課制度の検証を行うとともに、考課結果を適正に処遇に反映する。また、意欲、能力、実績を踏まえた効率的な職員配置によって組織力の最大化を図る。</li> <li>・ 職務の高度化・専門化および教職協働の強化等を視野に、教職員の意識改革と能力向上に向けたFD・SDを推進する。</li> </ul> <p><b>(3) 評価システムの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学園の組織運営に係る内部質保証の確立に向け、効果的な自己点検・評価を実施する。</li> <li>・ 福岡歯科大学は歯学教育認証制度（分野別認証制度）の本格開始に向けた準備を行うとともに2020年度（平成32年度）に大学基準協会の認証評価を受審する。福岡看護大学は2022年度（平成34</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学長のリーダーシップ強化に向けての体制づくりを協議する。</li> <li>・ 教育研究等に関し、業界別団体、地域等から意見を聴取する。</li> <li>・ 教員組織検討委員会等において歯科大学教員組織の見直しを協議する。</li> <li>・ 医科歯科総合病院と口腔医療センターの在り方を協議する。</li> <li>・ 三大学体制下における学生募集にかかる事務組織の在り方を協議する。</li> <li>・ 準備委員会を立ち上げ、具体的な事業等を検討し、決定する。</li> <li>・ 大学院設置構想を策定する委員会を組織し、社会のニーズを踏まえて骨子をまとめる。（再掲）</li> <li>・ 学士課程に対応できる教員を育成するため、助教、講師の研究を支援し、その研究成果を発表するとともに、民間の研究助成金の申請に全学的に取り組む。（再掲）</li> <li>・ 保健福祉学科では、短大活性化会議を中心に、他の養成校との専門教育の差別化を図る方策の検討を継続するとともに、志望学生増につながる多種多様な取組について検討する。（再掲）</li> <li>・ 女性の職場環境の改善に向け8月を目途に保育園を開設する。</li> <li>・ 有能な人材を育成するため、本学の求める事務職員像を策定する。</li> <li>・ 異動に伴う引継ぎ業務を円滑化するため、事務職員の異動時期について見直しを進める。</li> <li>・ 人事考課結果の処遇への反映方法の見直しを行う。</li> <li>・ 職務の高度化・専門化及び教職協働を目的として、FDとSDの一体化を推進する。</li> <li>・ 自己点検・評価を確実に改善・改革につなげるシステムの確立を図る。（自己点検結果を学長に報告し、学長が関係委員会及び部署に改善を促し、その結果を報告させる）</li> <li>・ 歯科大学は、歯学教育認証評価制度の受審に向けて、評価基準等を確認する。 また、平成32年に受審予定としている大学基準協会の認証評価の前段として、自己点検・評価委員会において、「福岡歯科大学の現状と課題‘16」を作成する。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<p>年度)に大学基準協会の認証評価を、福岡医療短期大学は2021年度(平成33年度)に短期大学基準協会の認証評価を、医科歯科総合病院は2017年度(平成29年度)に日本医療機能評価機構の病院機能評価を、それぞれ受審する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学は、自己点検・評価報告書「福岡医療短期大学の現状と課題」の作成を行い、ホームページに掲載する。</li> <li>病院は、病院機能評価を受審する。</li> </ul>
<p><b>(4) 情報公開の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検評価、認証評価を始め、学園活動の積極的な情報発信に努め、公益に資する適時かつ適切な情報公開を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価委員会において作成した「福岡歯科大学の現状と課題'16」をホームページに掲載し、学内外に公開する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生や患者等のニーズに応じた分かりやすい情報を発信するため、広報戦略を見直すとともに学園広報体制を充実させ、情報発信力の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生や患者のニーズを把握するため、歯科大学・看護大学・短期大学の新生に本学を選んだ理由についてアンケートを実施・分析するとともに、病院については新患アンケートの本院を選んだ理由に関する項目の分析をする。</li> </ul>
<p><b>(5) 危機管理体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害や医療事故など想定される様々な危機事象への対応を日常的に見直し、危機管理体制を強化する。また、学生・教職員に対し安全に関する意識啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に福岡市市民総合防災訓練を本学園にて実施することで、教職員に安全に関する意識啓発を行う。</li> <li>学園で編成している自衛消防地区隊ごとに作成したアクションカードを教職員へ周知する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>諸規則を遵守、整備し、健全な法人運営を堅持するとともに、監査環境の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部監査の実効性を高めるため、監査担当者と前年度の改善報告書等の検証を行う。</li> <li>公的研究費に関するガイドラインに基づき、適正な執行管理を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティに対する教職員の意識向上を図るとともに、重要情報を適切に保護するシステムの構築に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な学内LANを維持するため、多層防御による技術的セキュリティ対策の強化を実現するとともに、学内LANに接続する教職員の全パソコンに、共通のウイルス対策ソフトをインストールする。</li> <li>学園が大規模自然災害や火災などで被災した際の事業継続のための重要データの遠隔施設でのバックアップについて、セキュリティ面も考慮した上で、実施の必要性及び有効性を検討する。</li> <li>セキュリティ講習について、引き続き、新規採用者には採用時の初級受講を徹底し、中級未受講者には中級受講を推進することで、全教職員のセキュリティ意識向上を図る。</li> </ul>
<p><b>6 財務・施設に関する目標</b></p> <p><b>(1) 財政基盤の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本学園が継続的に発展し、社会からの要請に的確に応えるため、第三次中期構想を踏まえた財務計画を策定する。</li> <li>学生納付金を安定的に確保するとともに、外部資金(補助金・寄付金等)の獲得および保有資産の運用による増収に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務計画に基づく事業を実施するため、財政基盤の強化に向けた収入増加及び支出抑制等の諸施策の実現に努める。</li> <li>私立大学等経常費補助金の増額に向け、歯科大学は改革総合支援事業のタイプ3の採択を目指す。</li> <li>入学定員充足による安定した学生納付金の確保、また教育研究活動を推進するための財源として、外部資金及び資産運用収入を確保する。</li> </ul>

第三次中期構想	平成29年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科歯科総合病院、口腔医療センター、介護老人保健施設は収支改善に努め、早期に独立採算による安定した運営を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院では、病院収支を黒字化するため医療収入の増収を目指す。また、医療経費率の減少に努める。</li> <li>・ 口腔医療センターでは、診療の効率化により増収を図ることで前年度収入額を上回るとともに、経費の無駄を見直すことで支出を抑制する。</li> <li>・ 老健では、入所者(短期入所を含め)・通所の1日平均の利用者合計110名を目指す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率的予算執行と業務合理化により経費の抑制を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既定予算を見直し、事業計画を踏まえた予算編成を実施し、予算の効率的な執行に努める。また、業務合理化のため、事務システムの導入及びアウトソーシング等費用対効果を検証し、経費の抑制に努める。</li> <li>・ 事務用のパソコンの更新について、パソコン利用者の利便性と作業効率の向上等を目的として、計画的に実施する。</li> </ul>
<p>(2) キャンパス整備計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存校舎および教育研究・医療設備等の改修・更新計画を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育研究施設等の再配置を検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡歯科大学医科歯科総合病院の建替え等、既存施設の老朽化や新たな施設需要に対応するため、財政状況に応じた実効性のある施設マネジメント(施設整備や維持管理、既存施設の有効活用、省エネルギー対策、財源確保等)により、計画的・重点的な整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存校舎及び施設設備の改修について当該年度計画の実施及び次年度以降の年次計画を策定する。</li> <li>・ エネルギー使用合理化を引き続き推進し、熱・電気等のエネルギー使用量削減に努める。</li> <li>・ 情報図書館利用者サービス向上の一環として、今年度は1階保存書庫と研究室所蔵の約5.7万冊の点検を実施し、学園全蔵書15.7万冊の点検を完了し、蔵書情報の整備を実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生・教職員および地域住民の安全に配慮し、自然災害等に対応できる安全安心なキャンパス環境を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員を対象とした緊急連絡システムを導入する。</li> <li>・ 快適・安全な学生の学習環境に配慮したキャンパスを作るため、エコやアメニティを考えたキャンパス整備を検討する。</li> </ul>